

第4回八王子市歴史遺産活用検討会  
議事録

日時 平成31年3月18日(月)午後6:30～8:30  
場所 八王子市学園都市センター 第1セミナー室

開会

市 お手元に資料を配布している。歴文構想は検討中の中間報告という位置づけでお配りしており、細かい気になる点は多々あるかと思うが、本日は大きい視点で見ていただいて、ご容赦いただきたい。

改めて、歴文構想についてご説明させていただく。八王子で策定する背景と目的は、本文に「文化財とは、地域の歴史的背景や伝統・文化を理解するために必要不可欠なものであり、その地域の人びとの営みの中で、大切に護り、育まれ、今日まで伝えられてきた、地域の財産です」とあるように、八王子市にある文化財を保存・活用し、次世代につないでいくことが主眼だが、八王子市には長い歴史があり、そのすべてを構想の中で語ることは不可能。長い歴史の背景にあるものとしての文化財を保存・活用しようとする構想である。

また、「文化財は、こうした歴史・伝統・文化を裏付け、将来の発展の礎となる」とあるように、八王子の将来のイメージを市民と共有したいと考えている。資料中段で文化財に関する課題を書いているが、近年の社会状況の中で文化財の保存が難しくなっており、その現状を踏まえた上で課題に対応する必要があると考えている。このような点を踏まえ、「文化財とそれを取りまく周辺環境を含め、文化財の指定・未指定に関わらず、守るべき大切なものを『歴史文化資源』として幅広く捉えて価値づけし、社会全体で総合的に保存・活用するための考え方や方針をまとめることが必要」とまとめている。従来の文化財保護は、行政の指定によるものが中心だったが、指定に抛らない、未指定の文化財も含めた保存・活用を考えていかなければならない。文化財を取り巻く周辺環境や人々の思いも含めて、文化財と捉えていく。

歴文構想を通じて市民に八王子に対する誇りと愛着を感じていただき、主体的に参画していただけるよう、意識して策定していく。

本日は、歴文構想について、大きな枠でとらえながら忌憚のないご意見をいただきたい。

(1) 八王子市歴史文化基本構想について

市 分量が多い資料となったが、本日は大枠での議論を行いたい。歴文構想のイメージとして、机前にお配りした A3 資料は前回検討会でお配りした歴文構想の概要の資料。前回は歴文構想の骨格についてご説明したが、本日配布した構想の冊子と照らし合わ

せてご覧いただきたい。

本年度の進捗を共有したく、あくまで構想の全体像や今後の検討の方向をイメージしてもらえようにとりあえず冊子に取りまとめたもので、不十分な箇所も多いことをご了承ください。

資料編について、本編の中で書き込むべき内容と、バックデータとして資料編に収録すべき内容とを精査して、本編は簡潔な形でまとめたいと考えている。

現時点では本編を第1章から第10章で構成しているが、実際に歴文構想に書きたい項目を並べている状況。章が過多、統合の余地ありなどといった部分もあるかと思う。歴文構想の中の特徴的な部分である関連文化財群も、現時点で10のテーマにまとめている。見せ方、まとめ方についても粗い部分はあるが、この後ご意見いただきたい。本検討会での論点を資料後段に記載している。本日は、歴文構想の全体像を見ていただき、市民にとって分かりやすい構想を作り上げていくうえで、全体の流れとしてどのような視点が欠けているか、このような流れでは無理があるのではなど、八王子の特徴的な歴史文化の魅力を語るのに、大括りの部分でお気づきの点があれば、ご意見を頂戴したい。

現時点での第1章から第10章は、目次を参照いただきたい。大まかな流れとしては、まず歴文構想とはどのようなものかしっかり述べたうえで、八王子の自然環境や歴史など特徴を整理して、第3章以降で歴史文化資源を把握する。第3章タイトルに「総合的把握」とあるように、八王子にある歴史文化資源をしっかり洗い出してデータベース化していくところから、文化財の把握をスタートする。歴史文化資源の考え方については、37ページを参照いただきたいが、未指定のものも含めて、文化財を周辺環境と一体的にとらえていく。

38ページをご覧いただきたい。まだ整理が必要だが、実際に歴史文化資源を把握するにあたり、保存・活用にうまく使えるようなデータベースとすべく構築を進めている。

52ページには、現時点で抽出した歴史文化資源を掲載しているが、どのような形で本文に載せるか、まだ分類方法の整理が必要。

第4章では、歴史文化資源の特徴を洗い出し、関連文化財群につなげるため、歴史文化資源を地区ごとに時代と類型によってマトリクス化している。冊子後ろから2ページ目に、マトリクスのサンプルを載せている。

67ページでは、先述のマトリクスから地区ごとのキーワードを抽出している。キーワードをまとめて、関連文化財群として第5章91ページ以降で整理している。

続くカラーのページでは、10の関連文化財群を設定している。ほかの章とは違った見せ方で作成を進めており、しっかりと市民にPRできるデザインを考えていきたい。現時点では、関連文化財群のタイトル、サブタイトル、それを説明するストーリー、そして裏ページに構成文化財のリストを掲載している。サブタイトルは、関連文化財

群（１）については「～暮らし」と結んでいるが、（２）以降では疑問形を採っている。事務局としては、読みやすさを考えて、後者のように疑問形で読者に問いかけるイメージを持っている。このような見せ方についても、ご意見をいただききたい。

121 ページから、歴史文化資源の保存・活用に向けた課題、第 7 章では、課題を踏まえた今後の方針、第 9 章では、保存・活用の推進体制に対する考え方を書いているが、このあたりは特にしっかり示していきたいと考えている。大まかな位置づけとして、第 6 章以降では、現状と課題を整理して、今後の方針を書いている。章の構成についても、後ほどご意見いただきたい。

第 8 章では、歴史文化保存活用区域について書いている。文化庁が示している指針でも、文化財を核として、文化的な空間を創出するための計画区域を定めることが望ましいとされており、八王子市においても可能な限り設定していきたいと考えている。景観条例や沿道集落の活性化など、市の中で様々な施策が同時に動いているので、文化財行政単体でなく、既存計画で設定されている区域とうまく連携させるように、他所管とも意見交換しながら進めているところ。146 ページから、仮にはあるが区域の候補を掲載している。ほかの計画で指定されている区域を中心に設定できないかと検討している。（10）の沿道集落地区は、市街化調整区域の集落における、活性化の取組が進められている中で、未指定文化財を活用しようとする動きも出ており、連動していきたいと考えている。

最後に、資料編として、本文を裏付けるバックデータを掲載する。

現状の課題と、その解決策について、筋の通った基本構想となるように今後整理をしていく予定。

市 前回検討会での骨子に少し肉をつけた状態だが、ご意見いただければと思う。

- ・ これだけのボリュームの文章を確認するのはなかなか大変。

時代区分の名称について、検証したほうが良い。たとえば目次に「鎌倉～安土桃山時代」とあるが、安土桃山時代とは日本美術史における区分であり、歴史を語る際には適切でないので訂正いただきたい。また、縄文時代についても、通常、前期・中期・後期と区分する。明治期以降については、西暦も記載したほうが良いのでは。

- ・ 鎌倉～安土桃山時代についてご指摘があったが、中世は 600 年にわたる時代であり、これを一括して述べるのは乱暴。少なくとも中世前期・後期、あるいは鎌倉、室町、戦国くらいは分けたほうが良い。昭和に関しては、戦前と戦後では国家体制が違うため、分けて述べるように再検討したほうが良い。

この基本構想を示す対象は誰か。

→（市）基本的に、八王子市の計画は市民に対して示すものなので、市民が読んで分かりやすいことが一番大事な視点と考えている。

- ・ 第 4 章で地区別にいろいろなキーワードが挙げられているが、各地区の違いが分かりづらく、地区で分けるメリットが分からないという印象。第 5 章で 10 の関連文化財

群が掲載されているが、第4章はその10個を引き出すデータとして位置づけられるのだろうと考えた時に、地区別でキーワードを挙げてしまうと地区どうしで被りが出てくる。第5章につなげられるような、適切な整理が出来れば良い。

→(市)地区ごとに歴史を記載しているが、合併の歴史を踏まえない意図があった。地区ごとの特徴も、各地区の共通点もあるが、八王子全体の歴史文化の特徴が見えてくるようなまとめ方を検討したい。

- ・見せ方による改善もありうると思う。ビジュアルをうまく用いて、第5章につなげる工夫をすると良いと思う。

→(市)八王子市としてのまとまりも見えるようにしていきたい。

- ・いまのご意見に関連して、第4章で把握した現状を踏まえて、第8章で保存活用区域や保存・活用の方向性を示しているわけだが、内容が全然相対しておらず、つながりが見えないと感じた。一から作成されて難しいところなのだと思うが、第4章と第5章のつながりに加え、第4章から第8章へのつながりも意識しないと、ばらばらに見えるのではという印象。

また、第8章は、目次では(9)までしかないが、中身をみると(10)も掲載されており、整合していない。

→(市)第7章の見せ方が大事になると思う。関連文化財群や保存活用区域といった項目において、八王子の歴史文化資源をどうしていくかということすべてを描ききることは出来ないと認識している。関連文化財群と保存活用区域は、あくまで八王子の歴史文化資源の特徴を把握し、保存・活用する一つのツールとして整理したいと考えている。この際、保存活用区域以外のエリアをどうするかということも大事となるが、第7章でその方向性を示すようにしたい。第8章では、行政だけでなく市民と取り組んできた歴史文化資源活用を例示したいと考えている。

先ほど、地域の特徴をまとめて関連文化財群につなげる点について各委員からご指摘があったが、文化財の保存・活用は行政だけでなく地域住民が関わっていれば一番いい。その際には地区レベルで考えておいた方が市民活動にもつながりやすいと考えている。時間がかかるが、地域の人たちが文化財を大切にしていくなかで、その先駆けとして市全体の関連文化財群、保存活用区域を、ひとつの推進ツールとして示している。

- ・第8章で保存活用区域という概念があって、第4章では10地区を設定しているが、その関連性について、第8章は保存・活用に向けた区域の設定なのだと思うが、保存および活用といった時にどちらがメインになるのだろうか。また、第8章の考え方や意義が肝になってくると思う。146ページ以降で記述される予定の「保存・活用の方向性」によって、平面としての地区でなく、コンセプトを持った地区として地区の設定が意味を持ち、それぞれがつながってくるのではと思う。

→(市)第8章では、関連文化財群との関連も示したほうが良いと考えている。ただ、

10 地区と関連文化財群がうまく関わってくるかは微妙なところもある。

- ・ 139 ページあたりから、ソフトのこととハードのことが混在している状況だと思う。  
→(市)第6章の現状と課題からリンクしてくると思う。ソフトとハードについては、制度的な視点だけでなく、八王子市全体を見渡した時に有形の指定文化財が少なかったり、局所的に偏在したりしているなかで、未指定の文化財をどのように捉えていくかも整理が必要と考えている。
- ・ 「歴史文化保存活用区域と保存・活用の方向性」において、各地区の地図が載っているが、八王子全体の地図の中でここ、と示したほうが見やすいかと思う。初めての方には分からないかもしれない。  
→(市)景観計画でも全体図の中で重点地区を示しており、それを参考にして調整したい。  
実際には、沿道集落地区についても、示した図の中にさらに7地区があり、現状の取組みも様々。ある地区では古民家がまとまって立地していて、どう保存するかという話が出はじめていたり、別の地区では古民具を活用したワークショップなどが行われていたりする。このような取組みを支えられるように工夫をしていきたい。
- ・ 関連文化財群について、歴史的に見て内容に間違いがいくつか見受けられるので、最終的には調整が必要かと思う。一番大きいところは、八王子芸者について。最近活動が盛んになってきているので盛り込みたい気持ちはわかるが、江戸時代に関連づけるべきではない。江戸時代の項目に八王子芸者の写真が載っているが、江戸時代の八王子には芸者はいなかった。現在の八王子芸者につながる流れは、江戸時代からのものとは別に花街において形成されてきたもので、現在の八王子芸者が江戸時代からの流れを汲んでいるとするのは誤りである。江戸時代に芸者が活動していて料亭があって、という部分は訂正が必要。  
また「近世以前の八王子に勃興した武士たち」において、下原刀の復活について記載があるが、復活と表現して良いかは疑問。以前の技術が正しく受け継がれていることをもって復活と表現すべきでは。この場合、現代の八王子で刀を作り始めた方がいて、八王子にかつて下原刀という刀があったということに過ぎず、下原刀の復活と表現することには慎重になったほうが良い。  
→(市)歴史的整合性は検証する。また、復活という表現についても誤解のないように記述したい。
- ・ 細かい気になる点はあるが、たとえば火災の項目において文政7年の火災が含まれていない。  
→(市)まだ精査できている状況ではないが、どこまでさかのぼり、どこまで記載するかは検討が必要。網羅的に載せられないため、現在や今後の取組みにつながるような内容に注目して整理していきたい。
- ・ 諏訪の森が全滅してしまったことなど、比較的最近の災害状況も記載したほうが良い。

- ・ 第5章の関連文化財群はカラーで、パンフレットが挿入されているよう。ほかのページの資料然としたまとめ方とは異質な印象だが、あえてそうしているのか。  
→ (市) 関連文化財群は保存・活用のツールと考えているが、その使い方のイメージとしては、まさに歩いて回れるパンフレットのようなものにしたいと考えている。事務局としては関連文化財群が肝と考え、先行してイメージを作り上げている。
- ・ 趣旨としては良いと思う。ただ、ほかのページにカラーや図があれば違和感もないだろうが、1冊で市民の皆さんに見ていただく時に、まとまり感がなく不思議な印象になると思う。むしろ資料編に入るページのように見える。
- ・ 八王子に色々埋もれている「未指定の文化財」と称するものについて、これをどうしていくという話になるのだろうか。今回の構想は、一つのアクションプランとして、埋もれている文化財に類するものを掘り起こして、それを広められるようにするというのも目的の一つになるかと考えていたが、そのあたりをどうするかもっと書いたほうが良いと思う。  
→ (市) 歴文構想の前提として、文化財の指定・未指定を問わないこととしているが、事務局でも、未指定の文化財をしっかり説明しなければ分かりにくいだろうと議論している。まだ形に出来ていないが、たとえば40ページに、指定文化財とは何かを整理している。このような形で、文化財とは何なのか、指定されている文化財とは、未指定の文化財とは、ということを手際よく説明する必要があると考えている。
- ・ 本格的に網羅的な調査をしない限り、なかなか未指定の文化財は見えてこないと思う。  
→ (市) 現在見えていない文化財を掘り起こすことも必要だが、各地域で大切にされているが、指定されていないから補助も受けられない、見向きもされないというものに対して、しっかり位置づけをしてスポットを当て、みんなで大切にしていく方向性を描けるようにしたい。
- ・ 地域で大切にしているものは結構あると思うので、各地区でアンケートを実施すればかなり出てくるのでは。  
→ (市) ワークショップやアンケートを通じて拾い上げている。
- ・ 138ページの基本理念について、「未来へつなげる」と直接的に表現するのではなく、大事な部分なので、コピーライターの世界ではないが、ほかの表現を使って非常に練られた斬新なメッセージにしたほうが良いのでは。  
38ページについて、(2)の歴史文化資源の把握の方針で、歴史文化資源の分類の表があるが、この分類の仕方がよく分からない。「静的資源」「動的資源」などよく分からない。また、静的資源の中に自然的資源があるが、動的資源の中の考古・古生物資料にも自然的なものが含まれてくるのでは。なかなか難しいと思うが、この区分が整理しきれていない印象。  
→ (市) データベースを整理していくうえで構築してきた、現時点での整理となっている。八王子全体の特徴を洗い出すためにデータベースを作っているが、作った後に

どのように活用できるかを意識して分類を検討している。たとえば、災害時に状態を点検すべき有形文化財を検索できることなどの視点でも検証していきたい。

- ・ 図書館資料は3桁で世の中の全ジャンルをうまく分けており、これに準拠してみるほうが分かりやすいかもしれない。
- ・ 31ページで「新元号期」とあるが、この項目が必要だろうか。掲載するとしても、別に適切な位置があるように思う。

→(市)構想の仮タイトル「百年の計」を意識して、未来を見通すという意味で掲載したもの。ただ、この「歴史環境の変遷」という節では過去から現在に至る歴史をまとめているため、ここに配置して良いのかも含めて再検討する。

- ・ 最近、こういったプロジェクトで必ずSDGsを見かけるようになった。最後の締めとしては良いと思う。
- ・ 11ページの観光客数に違和感を持った。観光目的の6割以上がショッピング利用とあるが、これを観光客数と呼んで良いのか。

また、関連文化財群(9)近代の文化教育と自由民権運動について、別紙にて八王子市内の大学や短大と関連づけて記述されていることに違和感を覚えた。

→(市)大学などに関連づけるのは無理があるということは、事務局でも考えているところ。「学園都市」であることが、八王子市の現在と今後を語るうえでキーワードになってくると考えており、そこにつなげたい意図。無理やり感はあるながらも関連づけている状況で、関連づけられるものなのか、あるいは視点を変えたほうが良いのか、見直したい。

市 しっかり精査し、市民にとって分かりやすい構想にしていきたい。来年度も、順次構想を示して意見を伺っていく。夏頃が素案完成の目標。

## (2) 日本遺産認定ストーリーについて

市 前回、高尾山を主軸に据えたストーリーをお示しした。今回は、文化庁に提出する実際の様式に沿って用意した。内容は十分練っていない状態だが、視点が異なる4案を提示している。

市 高尾山をメインに据えたストーリーで日本遺産の申請をしたいと考えている。ストーリーの概要を200字程度で記述する様式1-1、A4用紙2ページでストーリー全体を語る様式2の2種類を用意した。昨年度、認定を受けた宇都宮市の申請書類も、本日お配りした。構成文化財の件数は、認定案件によってばらつきがあるが、宇都宮市の場合は38の文化財がリストアップされており、指定、未指定とも含んでいる。ストーリーにおける個々の構成文化財の位置づけを補足説明することができるが、文化財そのものの説明にならないように注意が必要。

資料2で、ストーリーの現状と本日の論点を整理している。現状としては、切り口やテーマを試行錯誤しているところ。ストーリーの認定審査基準は、興味深さ、斬新さ、

訴求力、希少性、地域性。この観点を踏まえて、提示した切り口に対してご意見いただきたい。

検討案1は、インバウンドを意識して、外国の方から見る高尾山の魅力を、歴史だけでなく近代の観光地化の流れ、不思議な力などと絡めて書いたもの。

検討案2は、山岳信仰をテーマに据え、山伏の視点でストーリーを書いたもの。

検討案3は、幕末から開国に至る時期にフォーカスして、外国人旅行者が横浜を通過して八王子や高尾を訪れたことなどをメインテーマに据えたもの。

検討案4は、都市の構造や景観を俯瞰したもの。文化的景観に注目し、都市のすぐ裏にある裏山・里山的なエリアとして語っている。

- ・ 日本遺産では独自性やストーリーの唯一性が重視されるのだと思うが、すでに認定されたストーリーと競合しないものは4案のうちどれか。
  - (市) 検討案1については、山岳信仰に関するストーリーはほかでも見られるが、近代まで捉えた点が特徴。検討案2も、山伏や修行に関するストーリーはほかでも見られるが、山伏側にフォーカスした視点で描いている点が特徴。検討案3は、幕末から明治初期の外国人遊歩に関するもので、これはほかに例がない。検討案4は、仕上がっていないところはあるが、ランドスケープ的な視点はほかに例がない。
- ・ 検討案1と3をミックスするとまとまるのでは。ミシュラン獲得はごく最近の出来事なので、もう少しボリュームを軽くして、そこに外国人遊歩の話を組み入れてはどうか。また、山伏や修験の山として大山があるが、標高の高さも敵わず、地理的にも近いので、テーマとしては避けたほうが良い印象を持った。
  - (市) 修験と山岳信仰に関する山として、伊勢原市の大山、鳥取県の大山、出羽三山、鳥取県の投入堂などあるため、意識して差別化する必要がある。
- ・ 競合しないことを考えると、横浜から近いこと、東京都内にある交通アクセスの良い山として観光地化してきたことがポイント。これらを絡められると良い。
  - (市) いろいろな時代、いろいろな人が守ってきた歴史が通底するテーマではある。
- ・ 宇都宮の例を見ると、大谷石に特化している。認定を意識すると、高尾山の歴史や伝説などに特化する要素を見出して、広がりを持たせ過ぎないのが良いだろう。ただ、信仰だと大雄山、御岳山なども競合するため、テーマとして弱い。八王子と高尾の関係を精査して、高尾山に特化する。プラスアルファで国指定の八王子城跡を含めていく、という考え方をしたほうが良い。
  - (市) 少ない字数で際立った内容を書かないといけないので、しっかり整理していきたい。
- ・ 東京の裏山というキャッチフレーズは、分かりやすくてすごく良い。外国人という表現が適切かは分からないが、「外国人を魅了した」も良い。都心に近い山の良さを改めて感じた。ただ、裏山についても表現が適切かは分からない。
  - (市) しっかり魅力として表現できるような方法を検討したい。



- ・ 4つのテーマや視点があり、苦勞されているだろうと感じた。第一印象を与えるタイトルが重要だと思うが、4テーマのタイトルは考え込まれすぎて、分かりにくく、しっかり伝わってくるものがあまりなかった。興味深さ、斬新さ、訴求力などの認定審査基準があるということだが、誰が興味を持つのか、誰が斬新だと思うのか、誰に訴えかけるのか、曖昧な印象を受けた。  
→（市）文化庁は、観光的な視点で、歴史文化に詳しくない人も読むことが出来て、実際に訪れて体験することが出来るストーリーであることを重視している。きちっと歴史文化や文化財を見ながら、観光的な魅力を感じてもらおう。日本遺産は保存・活用の最たるものなので、これを読んで、どこに行つて、何を楽しむのかが重要。
- ・ 観光の領域では、ターゲットを明確に設定してアプローチを検討する。ストーリーにおいても、誰に見せたいからこのような見せ方をするという方法を採用したほうが良い。  
→（市）海外の観光客は、魅力を訴える上で重要なターゲットの一つと考えている。また、ストーリーについては、差別化や独自性も大事だが、単なる地域自慢をするのではなく、日本の伝統文化を語れるものにする必要がある。
- ・ 高尾のムササビが入っていないが、最近では鑑賞する会も現れており、そういったものも散りばめていくと良いのでは。  
→（市）検討案4で、人の暮らしと近い山ということで、ムササビなど交えて書きたいと考えている。
- ・ 高尾山の植生は、全国的に評価されている。タカオスミレなど独自の植物もある。
- ・ 検討案4について、「里山」「鎮守の杜」という表現がある。里山というとナラなど人が使ってきた林を指すが、高尾山は明らかにそれとは異なり、禁伐が続いてきたので鎮守の杜に近い。それがいまは里山になってきているというストーリーになると思う。「東京最大の鎮守の杜」と表現しても間違いではない。極相林になっているところがほとんど。裏山と表現しても間違いはないが、片側には常緑広葉樹林があり、もう一方にはブナ林があるように、気候帯が半分に分かれている鎮守の杜。そのことをもっと強く推しても良いのでは。  
→（市）里山、裏山、鎮守の杜、とキーワードを出したが、人が利用してきたという視点で整理を試みたものだった。
- ・ 検討案2では修験に特化しているが、どうしても大規模な出羽三山に負けてしまう。検討案3は外国人の来訪があった話だが、これから来る外国人にも興味を持ってもらえらると思う。この検討案3と、奇跡の山としての高尾山を描いた検討案1を組み合わせるのが一番現実的な気がする。東京に近いこと、横浜に近いことが一番大事。高尾山の札には、江戸の間屋組合、魚河岸などの札もあり、江戸と非常に強いつながりを持っていたことが分かる。高尾山が江戸に出向いて出開帳を行い、信者を獲得して彼らに講を組織させていた。東京・江戸、横浜との結びつきを検討案1の奇跡の山と結び付けると、ほかの霊山にはない高尾山特有のものが見えてくる気がする。

- ・ 江戸庶民との結びつきという、線の強いものを入れると良い。
- ・ 外国人遊歩地を示した地図の西端に高尾山がある。シュリーマンは絹の取引で八王子を訪れており、ベアトの写真も八王子周辺、鑓水などを写したものがかなり残っているので、そのあたりのストーリーも含めていくと良い。彼らが高尾山に上ったかは定かではないが。
- ・ シュリーマンやアーネスト＝サトウなど人名を入れると、インパクトが出る。
- ・ 検討案1で、神々しくも親しみやすいとあるが、要するに信仰の場所でありながらレジャーの地としても楽しまれ、相反するものが両立していることが高尾山の特徴で、これは江戸東京に近いことと関連している。それを外国人という外からの視点が発見したという切り口で書くと、現在もそれが引き継がれていて、外国人がなぜかそこを訪れ、外国人の視点という歴史を繰り返しているという大きいストーリーを組めると、ほかのストーリーにはないものになりそうな印象。検討案1と検討案3の組み合わせは良さそう。

また、八王子だから養蚕の話も入れたいが、主役がいっぱいになってもストーリーが分からなくなる。サブとして入れられるなら入れられれば良い。

宇都宮と見比べて、インパクトのある写真がなかなかない点が違う。良い写真があれば、文章を読まなくても興味を引き付けられる。

→ (市) 宇都宮も鞆の浦も、書類に載っている写真のインパクトが強い。認定されているところはどこもインパクトがある。日々意識して探しているがなかなか難しい。

- ・ 最終的に写真のレイアウトなど整えていくと、全然印象が違ってくと思う。
- 市 検討案をブラッシュアップして、再度示したい。高尾山をメインとしたいが、高尾山自体には申請に必要な国指定文化財がない。現時点では、八王子城跡を絡めていきたいと考えているが、関連性の描き方は要検討。

### (3) その他

- 市 来年度も引き続き、5回ほど検討会を開催予定。8月をめどに歴文構想の素案を提示したい。その後パブリックコメントを経て、11～12月に策定予定。日本遺産については、来年1月下旬～末が申請締切。引き続き案をブラッシュアップしていく。また、歴文構想は、素案とあわせて概要版を作成するが、たたき台が出来たらお示しする。
- ・ 皆様のご指摘にもあるように、表現したいことをしっかり伝えられる写真が重要。
- 市 各所にご協力いただきながら、良い写真を用意したい。写真の調達方法についても、皆様に引き続きご助言いただきたい。
- ・ ワークショップで写真を集める方法もあり。日野図書館が5、6年前から展開している日野宿発見隊では、駅前の主要な公共施設に古写真を展示している。そのようなイベントを開催することで、歴文構想や日本遺産のアピールも可能。特に昭和30～50年代の街の写真は希少。このように市民の協力を得るという方法もある。

- 市 外国人留学生のモニターツアーを行ったが、斬新な構図の写真など撮ってもらった。
- ・ 高尾山にスキー場があった時の写真はどこかにないだろうか。レジャーの話で盛り込めるし、スキーと高尾山は意外な組み合わせで面白いだろう。
- また、八王子城と高尾山の関係について、高尾山に城見台があるが、そこから八王子城跡の全貌を見ることができ、インパクトのある写真が撮れる。検討案に載っている八王子城跡の写真は、どれもあまり面白くない。

(4) 閉会

- 市 次回の検討会について、スケジュールを調整する。ご負担のない範囲で、次回までにご意見や情報などあれば、メールなどでご連絡いただきたい。

以上